

人口後志微減21万2850人

倶知安外国人501人増

総務省が5日発表した1月1日時点の住民基本台帳に基づく人口動態調査で、後志管内20市町村の日本人の人口は前期比3505人減(1.62%減)の21万2850人となった。倶知安町は外国人住民の転入数が転出数を上回る社会増が501人となり、昨年に続き町村部で全国首位。外国人向けの宿泊施設の建設など、リゾート開発が活況な二セコ地区の表情が反映された。

(西出真一朗)

後志管内20市町村の人口と増減

市町村	人口	前年比増減 (増減率=%)
小樽市	120,220	▲2,218(▲1.81)
島牧村	1,543	▲29(▲1.84)
寿都町	3,051	▲89(▲2.83)
黒松内町	2,972	▲47(▲1.56)
蘭越町	4,866	▲65(▲1.32)
二セコ町	4,782	13(0.27)
真狩村	2,087	▲3(▲0.14)
留寿都村	1,832	0(0)
喜茂別町	2,209	▲47(▲2.08)
京極町	3,095	▲51(▲1.62)
倶知安町	14,922	▲92(▲0.61)
共和町	6,111	▲94(▲1.51)
岩内町	1,3145	▲250(▲1.87)
泊村	1,736	▲8(▲0.46)
神恵内村	900	▲23(▲2.49)
積丹町	2,192	▲67(▲2.97)
古平町	3,205	▲106(▲3.2)
仁木町	3,371	▲63(▲1.83)
余市町	19,502	▲266(▲1.35)
赤井川村	1,109	0(0)

(1月1日現在、外国人を除く。▲はマイナス)

20市町村のうち、人口が増加したのは二セコ町のみ。留寿都村と赤井川村は増減がなかった。減少率が最も高かったのは、古平町。2145人、転出者が転入者を上回る社会減が136人だった。後志管内では、死者数が出生数を上回る自然減が小樽市の2218人で、道内の市町村では、函館市、旭川市に続いて3番目の多

減率は1.81%で道内主要10市で最も高かった。都市計画が専門の小樽商大の大津准教授は「一人人口減少は全国の地方都市で起きており、人口を増やすことは難しい」とした上で、「観光客などの交流人口を増やし、地域の活力、経済活性化につながるのが重要だ。小樽にはその潜在能力がある」と指摘する。

管内の外国人住民は前年同期より765人多い3098人。倶知安町が1547人でほぼ半数を占めた。道内では札幌に次いで2番目に外国人住民が多かった。

二セコ地区の外国人住民の増加について、大津准教授は「魅力が国外にも波及している結果。今後はこのような外国人が町にどう関わるか、全国の先進事例を学ぶことが大切だ」と話している。